

シラバス詳細

タイトル「2026年度シラバス」、カテゴリ「経済経営学類」

科目情報	
16 / 23件	
科目名	上級日本語 2 B
講義名	上級日本語 2 B
クラス	
担当教員	井本 亮(e060@ipc.fukushima-u.ac.jp)
実務経験のある教員による講義	
学年	1年、2年、3年、4年
キャンパス区分	金谷川キャンパス
開講学期	後期
開講時期	(後期)
曜日・時限	木 2
講義室	講義室未設定
科目種別	通常講義(学類)
単位区分	要卒外(ｼｽﾃﾑ用)
単位区分	要卒外
単位数	1
準備事項	
備考	
特修プログラム	
直接参照URL	https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/cu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047540165697&formatCD=1

授業方法
講義、演習、グループワーク、発表、ディスカッション、ICT機器の活用

講義情報
授業概要とねらい 【概要】 本学の日本語科目（Ⅰ～Ⅳ）では、大学の学業に必要な「大学留学生の日本語能力」（アカデミック・ジャパニーズ）の習得を目指す。この日本語Ⅱでは、大学留学生の日本語リテラシーとして求められる講義形式の聴解から内容要約、論点を発展させた討議など、インプットからアウトプットへの力を養成する演習問題を行う。 【ねらい】 文章を読んで正しく理解するとともに、効果的な文章理解のための読解スキルを学び、読解力の向上をめざす。また、文章の内容を自分の表現として平易に言い換える力を養う。語彙の読みなど音読の練習も行う。 【カリキュラムにおける当該科目の位置付け】 ・外国語リテラシー（幅広い教養 3 - ①） ・学問的思考の基礎（幅広い教養 2） ・多角的・総合的思考（幅広い教養 1） ・自己形成力／自己学習力（自己形成力1） 単位認定基準 (1)論説文・コラムなどについて、その内容を理解し、平易な言い換えや内容整理ができ、簡潔な要約文を書くことができる。 (2)内容語・機能語の適切な用法を理解し、正確な単文の作文・報告ができる。 (3)授業への出席、宿題提出、発話練習、発言や自己学習などを通して主体的に授業に参加していると判断できる。

授業計画

- 第1回：イントロダクション（聴解要約）
- 第2回：聴解要約「量」語彙・本文
- 第3回：聴解要約「量」書き取り・内容理解
- 第4回：聴解要約「量」要約タスク
- 第5回：聴解要約「量」要約タスクふりかえり・発展的課題討議
- 第6回：聴解要約「開発途上国支援」語彙・本文
- 第7回：聴解要約「開発途上国支援」書き取り・内容理解
- 第8回：聴解要約「開発途上国支援」要約タスク
- 第9回：聴解要約「開発途上国支援」要約タスクふりかえり・発展的課題討議
- 第10回：聴解要約「人はなぜ化粧をするのか」語彙・本文
- 第11回：聴解要約「人はなぜ化粧をするのか」書き取り・内容理解
- 第12回：聴解要約「人はなぜ化粧をするのか」要約タスク
- 第13回：聴解要約「人はなぜ化粧をするのか」要約タスクふりかえり・発展的課題討議
- 第14回：聴解要約、総合的タスク：ラジオ生教材
- 第15回：学んだことの習得度を問うまとめを行う。

※上記授業計画は受講生の日本語能力・到達度・理解度を重視し、補助的・派生的・発展的な内容を追加的に導入することがある。そのため、授業の進度に変更が生じる場合がある。

授業計画（週形式）

教材・教科書

次のテキストを使用する予定（購入については授業開始の時に指示します）：『留学生のための アカデミック・ジャパニーズ 聴解』『メタ認知を活用したアカデミック・リーディングのための10のストラテジー』その他、必要に応じてプリント資料を配布する。つねに国語辞書を持参すること（電子辞書でもよい。ただし、スマートフォン・携帯電話・iPadなどタブレット端末の使用は教員の指示に従うこと）。
※課題提出や授業連絡にGoogle Classroomを使用するので、受講までにIPCアドレスで登録準備をしておくこと。クラス参加登録の準備ができ次第、Live Campusから履修登録者に周知する。
※LINEオープンチャットを用いてクラス内での情報共有や協働学習を行うことがある。LINEアプリが使えるスマートフォン等を持参すること。

参考図書

『教師と学習者のための日本語文型辞典』グループ・ジャマシイ編著』『同・ベトナム語版』『同・韓韓国語版』『同・英語版』

参考URL

<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/opac/rmbook/?lang=0&rmtype=1&reqCode=list&dptidpl=1&mkey=51&rminf=%E4%BA%95%E6%9C%AC%20%E4%BA%AE&rminm=&codeno=7>

授業外の学修、及び必要な学修時間

毎週、各課の宿題や語彙に関する課題などを課す。課題の提出を前提にした反転授業が基本的な授業スタイルになるため、そのための準備として各回1コマ程度の学習が必要である。
（単位制に基づき、少なくとも15時間の授業外学修時間を必要とする）

成績評価の方法

宿題&課題提出・期末平常試験・予習を含めた授業への主体的参加を評価する平常点の総合評価によって以下の目安にしたがって成績評価を行う。

成績評価の基準

- S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
- A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
- B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
- C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
- F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

金曜日10:30～12:00。その他の曜日時間帯も応相談。まず、アポイントをとること。

授業改善・工夫

オンラインサービスを活用し、資料配布・授業連絡・情報共有・課題提出・ディスカッション・成果物のアーカイブなど、能動的活動のための環境を整備する。

留意点・注意事項

この科目は【国際交流センター交換留学生対象科目】である。受講の目安となる日本語能力はJ-CATテスト230点前後または日本語能力試験N1合格とする。研究生は基盤教育科目「日本語ⅡB」を聴講申請すること。聴講する条件は上と同じである。

教員の実務経験の有無